

第2章 地域づくりの基本方向

1 地域づくりの基本的な考え方

人口減少社会の到来や急速な高齢化の進展，地域コミュニティの弱体化，グローバル化の進展などにより，社会経済情勢は大きく変化しています。

また，地方分権の機運が高まり，多様な主体が連携して，自己決定・自己責任のもとに地域の個性を活かした地域づくりを行っていくことが求められています。

こうしたことを踏まえ，県内各地域の特色ある地域資源を最大限に活用するとともに，産業の育成や雇用の場の確保などの活力ある地域づくりに取り組みながら，医療や環境，教育などが充実し，誰もが安心・安全で快適に暮らせる「生活大県」を実感できる地域づくりを進めていきます。

さらに，各地域の特性や特色ある取組などいばらきの魅力を県内外に積極的に情報発信することにより，本県のイメージアップを図っていきます。

2 地域づくりを推進していくための3つの視点

①多様な主体の参加と連携による地域づくり

県民や企業，団体，NPO，行政など地域づくりに携わる多様な主体の参加と連携による地域づくりを推進します。また，各主体が活動をしっかり展開できる環境を整えることが重要であることから，人材の育成や情報の提供などを推進します。

広域的な視点に立った地域づくり

広域交通ネットワークの整備を活かし，県内の全てのゾーンが連携することはもとより，国内外との連携・交流も視野に入れた，広域的な視点に立った地域づくりを推進します。

地域のもつ特性や資源を活かした地域づくり

地域づくりに携わる各主体が連携して，自然や歴史，文化などの地域の持つ特性や資源を，新たなアイデアや創意工夫により最大限に活用し，個性豊かで魅力的な地域づくりを推進します。

4 地域づくりの方向

地域づくりの基本的な考え方に基づき、総合的かつ体系的に整理した「政策展開の基本方向」を踏まえ、地域の特性や課題に対応した今後5年間に重点的に取り組むべき地域づくりの方向を示しています。

(1) 県北山間ゾーン

特性と課題

県北山間ゾーンは、久慈川、那珂川などの清流や八溝山系の山並み、滝や溪谷、里山などの豊かな自然環境を有する地域です。

この地域では、地域の特性を活かした米や野菜などが生産されているほか、木材や、しいたけなどの特用林産物、常陸牛などの生産振興が図られています。

また、袋田の滝、竜神峡や西山荘などの名所旧跡、温泉、食などの観光資源にも恵まれ、県内外から多くの人々が訪れていることから、交流・二地域居住やグリーン・ツーリズムなどによる交流を進めていくことが期待されています。

一方、中山間地域を中心に人口減少や高齢化による過疎化が進行しており、住民が安心して住み続けられるよう、定住人口の減少を少しでも食い止めるとともに、交流人口の拡大に努め、地域の活性化を図っていく必要があります。

地域づくりの方向

■活力ある地域づくりのための農林業等の振興や企業誘致の促進

土地改良事業による農業生産基盤整備の推進を図るとともに、県産材流通加工体制の整備や、常陸牛、奥久慈しゃも等の銘柄畜産物のブランド力アップを図るなど、地域特性を活かした農林業や地場産業の振興を図ります。

また、農産物のオーナー制度の充実などにより、意欲ある多様な農業者による地域農業の維持・発展を図るとともに、新規就農者・定年帰農者に対する研修やワークステイの取組を推進することにより、農林業等の担い手確保・人材の育成を図ります。

さらに、宮の郷工業団地への企業誘致など、企業立地の促進による働く場の確保に努めます。

■過疎地等における安心快適な生活圏の形成

へき地医療の充実や、医師、看護職員等医療従事者の確保対策の推進など、医療・保健・福祉の充実を図ります。

また、生活バス路線の確保やJR水郡線の輸送力増強などによる交通利便性の向上、携帯電話不感地域の解消など、生活環境基盤の充実を図ります。

さらに、道路や下水道などの基盤インフラの整備を進めます。

■豊かな自然環境を活かした観光交流空間の形成

豊かな自然環境を活かしたライフスタイル「いばらきさとやま生活」の発信により、地域の認知度の向上を図るとともに、移住や交流・二地域居住を推進します。

また、清流や里山、温泉、食、歴史、文化、ジオポイントなど多様な地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムや体験型教育旅行を推進するとともに、周遊観光バスの運行や農産物直売所の活用、広域交流を促進する道路の整備などにより、周遊型観光ネットワークの形成を図ります。

さらに、F I T構想に基づき、豊かな地域資源などを活かしながら、県際地域における広域的な交流圏づくりを推進します。

(2) 県北臨海ゾーン

特性と課題

県北臨海ゾーンは、久慈川、那珂川の下流に広がる平坦地や変化に富んだ海岸線など、特色ある自然環境を有する地域です。

この地域では、常磐自動車道や北関東自動車道、茨城港日立港区・常陸那珂港区など、国内外を結ぶ広域交通ネットワークの整備が進むとともに、日立地区の高度なものづくり技術の集積や、東海地区でのJ-PARCの立地など先端産業地域の形成が図られています。

また、海、溪谷や天心記念五浦美術館などの文化・観光施設、食などの資源にも恵まれ、県内外から多くの人々が訪れていることから、交流・二地域居住やブルー・ツーリズムなどによる交流を促進していくことが求められています。

一方、産業の空洞化や人口減少などさまざまな課題もあることから、産業活性化と働く場の確保、医療や福祉などの生活環境基盤の充実、定住や交流人口の拡大などにより、地域の発展を図っていくことが必要となっています。

地域づくりの方向

■活力ある臨海都市圏の形成

北関東自動車道や茨城港日立港区、常陸那珂港区などの広域交通ネットワークを活かした日立・ひたちなか・那珂地区などへの産業集積や、いばらき量子ビーム研究センターを拠点とした産学官共同研究の推進などを行うとともに、中小企業の新たな事業活動への取組など経営革新への支援を行います。

また、農業生産基盤整備の推進、県産材の利用促進や、常陸牛などの銘柄畜産物の生産振興・ブランド化の推進などにより、地域特性を活かした農林水産業の振興を図ります。

さらに、日立産業技術専門学院でのものづくり人材の育成を推進するとともに、高度技能の伝承支援を行うなど、地域の産業を担う人づくりを進めます。

■安心快適な生活圏の形成

救急医療体制の充実や、医師、看護職員等医療従事者の確保対策の推進など、医療・保健・福祉の充実を図ります。

また、地域のニーズに応じた多様な生活交通サービスの導入促進や、原子力の防災体制・安全確保対策の強化など、生活環境基盤の充実を図ります。

さらに、道路の整備や都市機能の充実など、基盤インフラの整備を進めます。

■魅力ある観光交流空間の形成

豊かな自然環境を活かしたライフスタイル「いばらきさとやま生活」の発信により、地域の認知度の向上を図るとともに、移住や交流・二地域居住を推進します。

また、変化に富んだ海岸線、食、歴史、芸術・文化、ジオポイントなど多様な地域資源を活かしたブルー・ツーリズムや体験型教育旅行を推進するとともに、周遊観光バスの運行や広域交流を促進する道路の整備などにより、周遊型観光ネットワークの形成を図ります。

さらに、FIT構想に基づき、豊かな地域資源などを活かしながら、県際地域における広域的な交流圏づくりを推進します。

(3) 県央ゾーン

特性と課題

県央ゾーンは、県都水戸を中心として、JR常磐線・水戸線や国道6号・50号などの東西南北に広がる交通体系を背景に、古くから産業と人口の集積が図られ、本県の経済・文化・行政を牽引する役割を担っています。

また、大洗海岸・涸沼・那珂川などの海や湖沼・河川、広大な平坦地と緑豊かな丘陵地など、変化に富んだ豊かな自然に恵まれ、野菜や果樹、きのこ類、魚介類などの農林水産物が豊富であり、史跡や文化財も数多く残され、笠間焼などの伝統工芸もあることから、県内外から多くの人々が訪れる地域となっています。

近年、ひたちなか地区などにおける商業・業務・レクリエーション機能の集積をはじめとして、県都周辺においても都市機能の充実が図られてきていることから、県都と周辺都市の連携による中核的な都市圏づくりを一層進めていく必要があります。

さらに、北関東自動車道、東関東自動車道水戸線、茨城空港、茨城港常陸那珂港区・大洗港区などの広域交通ネットワークの形成により、北関東地域や東アジア地域など国内外との時間距離の大幅な短縮が図られていることから、観光交流の一層の拡大や、グローバルな産業拠点の形成、新たな市場ニーズに対応した農林水産物の安定的供給体制の確立などにつなげていくことが求められています。

地域づくりの方向

■都市機能の充実した中核的な都市圏づくり

市街地再開発事業等による土地の高度利用の促進，救急医療体制の充実，公園整備など自然と調和した居住環境の形成促進などにより，国内外の玄関口として相応しい商業・業務，医療・保健・福祉などの都市機能の一層の高次化を図り，誰もが安心・快適な生活環境を実感できる中核的な都市圏づくりを進めます。

また，幹線道路の整備などの交通体系の強化により，効率的なまちづくりのための都市機能の分担と補完を促進するとともに，都市間相互交流の拡大による地域経済の活性化を図ります。

■自然，歴史，芸術，文化を活かした観光交流空間の形成

偕楽園や弘道館などの歴史的遺産，地域特有の自然や芸術・文化の体験，大型商業施設などにおけるショッピングをはじめ，多様な都市型・農村型の観光資源の連携を促進し，より周遊・滞在しやすい観光交流空間の形成を図ります。

さらに，北関東自動車道，茨城空港などの広域交通ネットワークを活用して，北関東3県や東アジア諸国との連携や，多言語による観光情報の発信を強化するなど，ブランドイメージの定着による広域・国際観光を促進します。

■広域交通ネットワークを活かした産業拠点の形成と地域特性を活かした産業の活性化

陸・海・空の交通の要衝としての優位性や，世界最高性能の研究施設 J-PARC が立地する東海地区との近接性を活かし，企業誘致や空港及び港湾の路線・航路の拡充などにより物流など国際的な産業拠点の形成を図ります。

また，伝統的工芸品である笠間焼や石材業などの地場産業の振興や，農商工連携による新商品の開発促進などにより，農林水産業の振興を図ります。

(4) 鹿行ゾーン

特性と課題

鹿行ゾーンは，東関東自動車道水戸線や国道51号，JR鹿島線などにより首都圏と結ばれ，霞ヶ浦・北浦を中心とする水郷地帯，さらに肥沃な行方台地など豊かな自然を有しています。

首都圏の食料供給基地として，園芸作物・畜産などの多様な農業生産活動や水産業が盛んで，新鮮で安全な食の供給や，農水産物の認知度向上・高付加価値な商品づくりが期待されています。

また、重要港湾である鹿島港を中心とする鹿島臨海工業地帯には、国内屈指の素材産業が集積しており、コンビナートの国際競争力の強化や、雇用の場の維持確保、さらには、安全で安心して働ける快適な居住環境が求められています。

さらに、鹿島神宮などの歴史的・文化的な資産や霞ヶ浦・北浦、鹿島灘などの豊かな水辺景観を有するとともに、カシマサッカースタジアムなどを中心とするスポーツ・レクリエーション拠点が形成されています。

この地域では、茨城空港の開港や東関東自動車道水戸線の一部開通などの整備効果を活かし、農水産物の販売促進や企業誘致による雇用の確保、国内外との交流の拡大につなげていくことが求められています。

地域づくりの方向

■首都圏の食を支える食料供給基地の形成

主要農産物であるメロン、ピーマン、カンショなどの経営安定化、鹿島灘や霞ヶ浦・北浦におけるつくり育て管理する漁業の実践などにより、消費者ニーズに応える新鮮・安心な農林水産物の安定供給を図ります。

また、農林水産物のブランド化を推進するとともに、農商工等連携を進め、農林漁業者と中小企業者が連携した特産品づくりを促進します。

■競争力のある工業地帯の形成と生活環境の整備

鹿島港の機能強化や鹿島経済特区計画の推進により、鹿島臨海工業地帯を国際競争力のある一大産業拠点として形成するとともに、東関東自動車道水戸線などのインフラ整備を促進し、企業立地の促進、雇用の創出を図ります。

また、風力発電など地球環境に配慮した再生可能エネルギーの普及促進を図るとともに、利根川や前川などの河川改修の促進、上下水道の整備促進、医師不足の解消による医療体制の充実などにより快適な生活環境の整備を図ります。

■自然環境とスポーツを活かした魅力ある観光交流空間の形成

生活排水の高度処理などによる霞ヶ浦・北浦の水質浄化の促進、砂浜の侵食対策や海岸防災林の維持造成などによる海岸の保全を図るとともに、豊かな水辺空間やカシマサッカースタジアムなどの地域資源を活かした観光ネットワークの形成、スポーツ交流の拡大を図ります。

また、美しい自然環境を活かして、茨城空港や成田空港の利用者を誘導し、国際的な観光・交流の推進を図ります。

(5) 県南ゾーン

特性と課題

県南ゾーンは、東京圏に近接し、常磐自動車道、JR常磐線、つくばエクスプレスなどの交通体系の整備を背景に都市化が進展しているとともに、筑波山や霞ヶ浦などの豊かな自然を有し、稲敷地域においては、広大な水田が広がっています。

つくば地区には、国や企業などの研究機関が集積しており、世界最先端の科学技術を活かした「科学技術創造立国日本」を支える重要な拠点づくりを進めるとともに、首都圏中央連絡自動車道など広域交通ネットワークのさらなる充実にあわせた産業集積の促進が求められています。

また、広域幹線道路などの広域的な交通基盤整備の促進、多様な主体の取組による霞ヶ浦の水質浄化などにより、住みよい魅力的な生活環境づくりを進めるとともに、鉄道沿線地域において、自然と都市的快適さが調和した魅力あるまちづくりや、市街地の活性化を進めることで、土浦・つくばを中心とした中核的な都市圏を形成することが期待されています。

さらに、筑波山や霞ヶ浦などの自然環境、歴史・文化などを活かして交流空間の形成による交流人口の拡大を図るとともに、稲敷地域の広大で平坦な農地や霞ヶ浦などの資源を活用した農業等の振興を図っていく必要があります。

地域づくりの方向

■科学技術の集積や広域交通ネットワークを活かした産業・研究拠点づくり

つくばにおける科学技術の集積効果を高めるため、大学や研究機関の連携を促進し、ナノテクなど最先端の研究開発拠点を形成するとともに、より高度な研究開発型企業等の集積など産業クラスターの形成を図るほか、新たなベンチャー企業の育成や新事業・新産業の創出を図ります。

さらに、首都圏中央連絡自動車道やつくばエクスプレス等の広域交通ネットワークを活かした、産業集積を図ります。

■自然と都市が調和した住みよい魅力的な生活環境づくり

首都圏中央連絡自動車道や広域幹線道路などの交通基盤や、生活排水等の汚濁負荷削減などの生活環境基盤の整備を促進するとともに、JR常磐線の東京駅乗り入れやつくばエクスプレスの東京延伸の促進等により、豊かな自然環境と都市的快適さが調和したつくばスタイルの推進、市街地の活性化、東京圏との交流拡大を図るなど、魅力的な生活環境づくりを進めます。

■自然、歴史、科学などを活かした多彩な交流空間の形成

市民、研究者、企業、行政のパートナーシップのもと、調査研究・技術開発、環境学習、市民活動などによる霞ヶ浦の水質保全活動を促進します。

また、筑波山や霞ヶ浦などの豊かな自然環境を活かした観光、スポーツ・レクリエーション、都市農村交流や、つくばの科学技術、歴史、文化、芸術などを活かした魅力ある観光ネットワーク・交流空間の形成を図ります。

■豊富な資源の活用による農業等の振興

首都圏の食料供給基地として、米の高品質化や、農地利用集積の推進・農業生産基盤整備による安定的な水田農業経営を推進するとともに、レンコンやわかさぎなど主要農水産物のブランド確立を図るなど、消費者ニーズに応えられる産地づくりを進めます。

また、地域資源を活かした農商工連携による加工品の開発や農業体験等を農業経営に含めたアグリビジネスを推進します。

(6) 県西ゾーン

特性と課題

県西ゾーンは、筑波山麓に広がる肥沃で広大な平坦地や東京圏に近い地理的優位性を活かした園芸農業を中心とした農業等の積極的な展開により、首都圏の一大食料基地を形成しています。

また、北関東自動車道や首都圏中央連絡自動車道など広域交通ネットワークの整備進展により、古河市周辺地区における裾野の広い自動車産業の集積による地域産業の活性化や、筑西市を中心とした筑西地方拠点都市地域及び高速道路インターチェンジ周辺での新たな産業拠点の形成が期待されています。

一方、定住人口や交流人口の拡大を図るため、東北本線や水戸線、常総線などの鉄道沿線地域では、東京圏との近接性を活かした良好な住環境の整備による快適な生活環境づくりとともに、桜川市真壁地区に代表される蔵などによる歴史的街並みや、水辺、里山など、多様な資源を活かした魅力的な交流空間の形成を進めることが必要です。

地域づくりの方向

■日本を代表する大規模園芸産地づくり

消費者ニーズ等に対応した高品質な農産物の安定供給を図るとともに、畑地かんがい施設など農業生産基盤整備を進め、新たな品目の導入による産地育成を図ります。

また、東京圏に近接し、米、畜産をはじめレタス、ハクサイ、ネギ等全国有数の産地を数多く有する地域特性を活かした販路拡大やPRを推進します。

さらに、集落営農組織や大規模経営体などを支える中核的な担い手の育成や新しい担い手の確保などを図ります。

広域交通ネットワークの形成を活かした新たな産業拠点づくりと地域産業の振興

北関東自動車道や首都圏中央連絡自動車道、筑西幹線道路等の広域交通ネットワークを活かした自動車産業や流通業などの拠点形成を促進するとともに、新規立地企業との連携による地元企業の技術力や開発力の向上など、地域産業活性化を図ります。

また、結城紬や真壁石灯籠といった伝統工芸品や石材業等の商品開発支援・後継者育成などにより、地場産業の振興を図ります。

■安心で快適に暮らせる良好な生活環境づくり

東京圏との近接性を活かした鉄道沿線地域等における交通利便性の向上や市街地整備を促進するとともに、広域的な幹線道路や下水道などの生活環境基盤や、医師不足の解消、急性期医療機能の充実など地域医療体制の整備による良好な生活環境の創出を図ります。

■歴史、文化や豊かな自然環境を活用した交流拠点づくり

歴史的街並み景観や映画・テレビのロケ地などの地域資源を活用した観光地づくりを推進するとともに、ミュージアムパーク茨城県自然博物館や小貝川、鬼怒川の水辺空間など、自然環境を活用した魅力ある交流空間の形成を促進し、交流人口の拡大を図ります。